

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「アフリカに関する史的研究所と資料」（平成28年度第3回研究会）
日時：平成29年3月5日（日）午後1時より午後6時00分
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所301
報告者：溝辺泰雄（AA研共同研究員／明治大学）

AA研共同利用・共同研究課題「アフリカに関する史的研究所と資料」2016年度第3回研究会
2017年3月05日日曜日
於：東京外大AA研セミナー室(301)

アフリカンナショナリズム及びパンアフリカニズム関連史料調査についての予備的報告
19世紀後半から1960年代までのガーナ(英領ゴールドコースト)メディアの事例から

溝辺泰雄
(明治大学・国際日本学部)

報告者は2016年度第3回研究会において19世紀末のアフリカ分割期及び20世紀中葉の脱植民地化期における現地メディア関連史料調査の報告を実施した。本報告の構成は下記の通りである：

0. はじめに
- 0-1. 本報告の目的
1. 世紀転換期(19-20世紀転換期)ゴールドコーストの新聞資料
- 1-1. 取り上げる予定の資料
- 1-2. 世紀転換期ゴールドコーストで出版された新聞に関する基本情報
- 1-3. 植民地期ゴールドコーストで出版された新聞に関する研究
- 1-4. 世紀転換期の新聞とその出版を担った現地エリート
2. 独立期ガーナのラジオ関連資料
- 2-1. 取り上げる資料の候補
- 2-2. 独立期のラジオ放送を含むメディアに関する主な研究・報告書など
- 2-3. 独立期ガーナ(とアフリカ)のラジオ放送に関する基本情報
- 2-4. 独立期のガーナのラジオ国際放送とパンアフリカニズム
3. まとめにかえて

本報告の目的は成果出版に向けて、報告者が取り上げる予定の候補資料の提示とその背景情報の整理にあった。そのため、報告者が取り上げる予定の資料「I. 19/20世紀転換期英領ゴールドコーストの現地エリートの新聞・著作物」と「II. 脱植民地化期のガーナにおける国際ラジオ放送に関する文書」のそれぞれについて、4~5点の候補資料(I. は1898年創刊の『ゴールドコースト・アボリジニーズ(The Gold Coast Aborigines)』の社説4点、II. はラジオ国際放送[ラジオ・ガーナ]開始時におけるンクルマ大統領の演説原稿など5点)を挙げ、それらの概要と背景情報を報告した。

本報告を通して、いずれの資料(新聞もラジオ)も、アフリカ分割期・脱植民地化期における現地の主体性を示す資料として位置付けることができるが、その一方で、世紀転換期の新聞を編集・発行していた現地エリートと「一般大衆」との間に存在していた社会的断絶や、脱植民地化期のガーナにおけるンクルマ政権による国内の反体制勢力に対する言論統制・弾圧の問題などを考慮すると、肯定的な側面のみを無批判に取り上げることには問題があることを指摘した。また、報告後の参加者との間の議論において、実際の国際放送の番組内容に関するさらなる考察の必要性や「パン=アフリカニズム」の概念が包摂する内容についての批判的な検討が必要な点などが確認された。